

## 死んだ鳩



仏婦会員



出石はいま観光地。毎日たくさんのお客様で賑わっています。ことにこの町のシンボル「辰鼓楼」とよばれる時計台の当たりは、一日じゅう人と車のラッシュです。

つい先日、わたしは買い物の帰り、人や車を避けながら自転車を走らせていました。鳩が道の真ん中で、死んでいます。その悲惨な姿にわたしはハッとして、自転車から飛び下りました。

そのとき気が付きましたが、その死んだ鳩を囲んで三・四人のランドセルを背負った子供が、みんな悲痛な面持ちでたっていました。あたりには大人や車が行き交います。それなのに誰も誰ひとりとして立ち止まろうともしません。

「かわいそうだね。あそこ植え込みのなかにお墓こしらえてあげましょ」

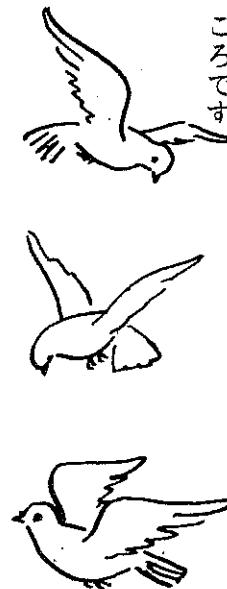
鳩をビニール袋にいれて、すぐ側の植え込みまで運びました。わたしが土掘つてお墓作るまで、子供たちはついてきて、みんな泣きながらおててを合わせてお別れしました。

どんなもののいのちも、おかあさんのおなかの中で、細胞分裂を繰り返しながら段々おきくなつて行く。それは猫でも犬でも虫のようなものもみんなおんなじ過程をたどつて大きくなつていく。そこではみんな同じ。兄弟みたようなものだった。兄子供たちはまだ幼い血のなかで、そのことを記憶しているのだろうか。だから鳩のいのちも虫けらのいのちも同じいのちという感覚で感じられるのだろう。

大人になると、どうだろう。人間は万物の靈長と、ひとり偉いものになつて他のものを軽蔑する。けだものだ、むしけらだと。鳩が殺されていても見向きもない。あの生物の分類も、もともとみんな同じ命だから枝分かれしたんだよ、もともと兄弟なんだよと教えているのに、人間だけが万物の靈長だつて。

そんな私たち大人を、一瞬だけでもめざめさせてくれた子供たちに、わたしは今こころからありがとうといいたいとおもいます。

お寺の法座でいつもいつも聞く御同朋御同行とかしづかれた親鸞様があの子供たちに姿をかえて、傲慢なわたしを叱つてくださいたのかもしれないと思っているところです



△△、現、在、説法

今日祖父の十七回の年忌とあって、わたしまだ2歳の子供を連れて、はるばる久しぶりに里へ帰つて参りました。

その夜の法事のお説教でうちの村のお寺さんの話のなかに出たのが「今現在説法」というほとけさまとはいうお話でした。なんでも阿弥陀経というお経さんの中にあるお言葉で、

「死んでから先の問題ではない。昔死んだ人相手のほとけさんと違う。この一日をあがき苦しみ生きなければならぬお前日當てに呼んで下さる南無阿弥陀仏じゃから、よそごと他人事でなく、今のこのいのちに聞かせてもらわねばもつたいない」

わたしの場合でいいますと、子育てで、ときには狂いそうになるその煩惱のなかにお念佛いただかなければと、こんど教えていただきました。なんとなくホットした思いです。

一日	中島喜久雄さま一周忌	
二日	森戸義則氏宅法事 DS	
三日	数森三男氏宅法事 DS	
四日	数森一郎氏宅法事 DS	
五日	成田清乃氏宅法事	
六日	斎藤義明氏宅法事	
七日	九日	教務所長歓送迎会
八日	ビハーラ兵庫総会	
十日	教区基幹運動推進委員会総会	
十一日	友遊クラブ DS	
十二日	十三日 教区門徒推進員総会研修会	
十三日	十四日 D S	
十五日	十五日 十六夜会定例法座	
十六日	十六日 ベンジャミンチャロコンサート	
十七日	十七日 DS	
十八日	十八日 DS	
十九日	十九日 中島俊昭氏宅法事	
二十日	二十日 玉井克弥氏宅法事	
二十一日	二十一日 朗読ボランティア編集	
二十二日	二十二日 友遊クラブ DS	
二十三日	二十三日 (合同役員会)	
二十四日	二十四日 宗祖降誕△△ DS	
二十五日	二十五日 田中和子氏宅忌明法事	
二十六日	二十六日 坂本智氏宅法事	
二十七日	二十七日 みのりを聞く会定例法座	
二十八日	二十八日 あすなろ録音	
二十九日	二十九日 教区布教団役員会 DS	

ずつと昔に死んだ人相手のほとけさんと違う。せっかくお前日當て、苦しい一日をあがき苦しんでいるそのお前日當てと呼んで下さる南無阿弥陀仏じゃから、よそごと他人事に聞いてはもったいない」

## 五月のことよみ



## 六月の予告

六月二十三・二十四日

本廟納骨・研修旅行

京都本山参拝→本廟納骨法要→紀州和歌山(鷺ノ森別院)

六月二十五・二十六日

出石組念仏奉仕団

六十になつて還暦祝いをしたころは、いま思い出しても冷汗三斗、なんとも恥ずかしいことでした。

当時はやりだつたのでしょうか、「自己史」書いたり「遺言」しためたり。

「自叙伝」はまあいいとして、『遺言』なんて最大の赤恥です。

財産は幸いありませんでしたから、そのことは必要なし。わたしの『遺言』の柱は、私が死んだあと葬式・法事のこと。

葬式には誰を呼べ、お寺さんのご法礼。祭壇のおおきさやお飾りまで指定してあります。満中陰までの七日七日のお客様のお茶菓子の手配までも行き届いた指図がしてあるのです。

子さまのことばに頷いているのです。  
六十代のついこのあいだまでは、炊事・洗濯・家事雑用をやつしていくても、なんか、恩着せがましく、してやつてるのに、お礼の一言も言わんかいなどと、要するにええかっこうして人に評価されたいというそんな卑しい気持ちがあつたんですネー。それがこのごろでは、そんなのに慣れてしまつて、あきらめてしまつて、どうでもいいや、わしはわしの好きなようにやらしてもらおーと。ところが妙なもので、嫁からも孫からも「おじいちゃん、ありがとう」って、言われたりすることがときどきあるんですね。おかしなもんですなー。

それで私、こころ欲するところに従いて、矩を踰えず。成る程なるほどと、七十になつたことを一人でよろこんでいるのですわ。

仏壯現役七十歳  
わたし今年で満70歳になりました。  
学校で習った論語で言うと「七十にして、  
こころ欲するところに従がいて矩を踰えず」  
という歳になつたわけです。  
この歳になつてわざしなるほどと、この七

寒風と春

四月十四日  
葬儀  
栗尾  
田中 淸吉さま  
(69歳)

◆ご旅行期間平成13年 6月23日(土)～ 6月24日(日)

日次	スケジュール					
	出石 ===== 登尾トンネル ====== 福知山 =====					
	6:00 7:00					
	====《国道9号》==== やまがたや === 丹波ic ===					
	7:50【休】8:00					
	==《京都縦貫道》== 脇掛ic == 京都本山・西本願寺 ==					
	8:50 9:30 10:00					
6/23 (土)	==== 西大谷廟(納骨堂) ===== 京都市内 =====					
	10:20 10:50 11:20【昼食】12:00					
	==== 京都東ic ===《名神道》==== 吹田jct=====					
	12:30 13:00					
	====《近畿道》==== 松原jct ===== 海南ic =====					
	13:50 15:30					
	===== 和歌山マリーナシティ ===== 新和歌浦(泊)▲					
	16:00『黒潮市場 他』 17:00 17:20頃					
	お宿 ===== 紀三井寺 =====《国道24号》=====					
	8:30 8:40【参拝】9:00					
	===== 高野口 ===== 高野山【見学・昼食】=====					
	11:30 13:30					
6/24 (日)	==== 和歌山ic =====《阪和・近畿・中国・舞鶴道》=====					
	15:30					
	===== 福知山ic ===== 出石					
	19:00 20:00頃					

蓮如さまの「平生業成」のおわじあい。  
如来さまのおよび声によびさまされたその  
とき、このままの私で往生決定。それ以後は  
ご恩のなかで、きばらず力まず、ナンマンダ  
ブツ御恩報謝と一日一日を元気にくらす。そ  
んなしあわせはないではないかと知らされま  
した。

70になつて、念佛のなかで如来さまのお  
おきなおおきなおいのちのなかで心ゆたかに  
くらさせてただいております。

経費　一人（男）三万五千円  
（女）三万二千円

そんな葬式法事をしてもらわなければ、浮かばないとでも考えていたのでしょうか。何とも何とも、なきれない恥ずかしいわがみでありました。

納骨修禊行



四月二十二日（日）、春の研修会が今年も盛大に開かれた。まず、第一部ボーリング大会。コーチパーティズ豊岡に集まつた約三十名。七レーンに別れての熱打の結果は仏壯役員坂本貢さんが優勝した。会場を（当日は春寒厳しく屋外をさせて）勝林寺本堂に移し坪口から提供の八重桜の大枝のもと観桜会気分を満喫して行われた第二部は約五十名の参加。前住職の喜寿祝いとあつて正信偈のおつとめにつづいて総代の祝辞、花束・記念輪袈裟の贈呈等のあと、感激に胸打ち震わせて前住職の記念講演があつた。そのあとの懇親会も例によつて仏婦役員の奉仕と沢山の方々からの志しをいただいて、春宵一刻、祝賀ムードで盛り上がつた。

# 春の研修会